



内容については省略しますが、この二つの事業については企業にボランティアとして参加していただくという視点がございまして、そこが特に先駆的な部分だろうと思っております。

私らが事業実施する場合には、人件費や広報経費等が必要になりますが、企業にボランティアとしてご参加いただくことにより、社会全体で

の少子化対策に比較的低コストで取り組んでいると思えます。

これらについては、是非成果につなげていきたいと思っております。以上です。

望月氏 簡潔にありがとうございました。

後村さんのご報告の中で子どもの権利条約の普及ということがありましたが、ちょうど、一番最初に報告のときに申し上げました北海道で僕が行って話をしたというのが、ちょうど子どもの権利条約で、特に乳幼児の権利のことだったのです。

それでは、もう時間が押し迫って、簡潔にお願いしたいと思います。最後に大阪の報告をお願いします。



岡本氏 「早く終われ」というプレッシャーを感じながらですが、報告させていただきます。NPO法人ふらっとスペース金剛の岡本です。

お手元の資料だと資料1の56ページです。それから、法人のパンフレット等は入り口のところで配っていただいたと思いますので、内容はまた、ゆっくり見てください。

先ほどから「子育て支援」なんか「子育て支援」なんかという議論のあるところだと思うのですが、私たちはどちらかというところ、子育てをする当事者としての集まりからスタートして、活動が始まっています。「子どもが親か」ではなくて、「子どもが元気だったら親も元気になってくるし、親がしんどかったら子どももしんどくなってくるし」という、そんな関係の中で、ひとまず子育てしている当事者の声を形にしてみようというように形で活動を始めました。

「ゆっくりお茶飲みたい」「子育ての仲間と会いたい」「とっても不安なときに愚痴をちょっと聞いてほしい」、そういうような場所を作っていこうということで、富田林市のつどいの広場事業という形で今は運営しています。

1年で2,500組ぐらいの親子がものすごくポロポロな民家に集ってきています。

広場の様子です。

(DVD開始)

子育て中の母親たちが集まって、お互い支え合う活動の支援をしようと大阪府富田林市にふらっとスペース金剛が誕生しました。ふらっとスペースという名前は、ふらっと気軽に立ち寄れる場所、対等な関係でいられる場所でありたいという思いを込めています。

月曜日から土曜日までの週3日、10時から16時、「ほっとひろば」を開いていて、小さい子を連れた人たちが好きな時間に訪ねてきます。子どもからほんの少し離れて自分のためにお茶を飲んでほっとくつろぐ、そんな時間をスタッフは提供しています。親同士の仲間作りの場にもなっています。また、スタッフが子どもたちと接しながら子育ての話や悩みを聞きます。

お昼にはお弁当を作ったり買ったりして持ってくる人、出前をとる人、台所を使う人、それぞれにお昼ご飯を食べます。

「出張ほっと広場」としてレイナーホールとかがりの郷で自主運営をしていた二つの「ほっとひろば」は、2007年4月から富田林市の事業となり、週3日ずつ開設することになりました。「ほっと広場」は予約もいりませんし、決まったメニューもありません。ほっとくつろげる空間作りを大切にしています。

ひろば空間作りには何が大切かを考えるミーティングをしたり、スタッフ研修や他の広場との交流も進めています。

2003年、民家を借りてふらっとスペース金剛は誕生しました。

2004年にはNPO法人になりました。

2005年、自主活動のほっとスペースがほっとひろばとして生まれ変わりました。

2006年、仲間が集まり、庭の大改装をしました。

ふらっとスペース金剛では三つの事業をしています。

「子育て支援事業」では、ほっとひろばを3カ所で運営。「地域作り事業」ではふらっと文庫と子どもわくわく探検隊。「女性のエンパワメント事業」では、預かり保育とふらっとギャラリーを展開しています。

ふらっと文庫では800冊の絵本やビデオがあり、いつでも借りることができます。文庫スタッフが、ほっと広場で絵本や紙芝居をやったり、パネルシアターや手遊びをします。子どもわくわく探検隊では、地元大阪大谷大学の学生ボランティア「Ann」のメンバーがリーダーとなり、1年生から6年生までの子どもたちと学年や校区を越えて家庭や学校では、なかなかできない体験をしています。

ふらっとスペース金剛では、親が自分の時間が持てるよう預かり保育をしています。ふらっとギャラリーは自分のできることを生かして社会参加をする場となっています。

自分たちの事業を発表したり他のNPOと連携したりする活動も積極的に進めていきたいと考えています。

子どもというものは、「こうやって育てなければいけない」という情報は世の中にあふれています。でも、私はありのままの私でいい。そして、私の子どもも、ありのままのこの子でいい。私たちが欲しかったのは「しんどい」と言ったときに「一休みしよう」と言ってくれる人。「ちょっと助けて」と言ったときに「できることあるよ」と言ってくれる人。そんな人たちが、いつも待っているふらっとスペース金剛でありたい。

ふらっとスペース金剛は大阪府富田林市で活動しています。南海高野線金剛駅から徒歩5分のところにあります。この麒麟の看板が目印です。どなたでもお気軽にお越しください。

(DVD終了)

私たちが熱意から始まった活動だったのですが、やっぱり熱意だけでは続けていけないということが、だんだん分かってきて、これが行政と協働することによって、ずっと繋がっていくことになったんだなということを感じています。

それから、新たに地元の商工会、社会福祉協議会に場所を提供していただいて運営していますが、協働する相手によってイベントも内容も変わってくるということを感じています。商工会と連携した子育て企画だと「DSの大抽選会をして、人集めよや」と言ってみたり、社会福祉協議会と一緒に何か子育てイベントを考えたなら「高齢者の方の作品展展示なんかはどうですか」みたいな意見が出てきたりする中で、特色があるそれぞれの団体と協力しながら、子どもや、子どもを取り巻く親子というものを面的にサポートできるようなことができていったらいいなというふうに感じています。

私たちは広場も大切だなと思っているのですが、今後、「ちょっと助けて」と言ったときに、すぐ助けてもらえるような、そんなサポートがまだまだ私たちの周りにはなくて、一緒に子育てヘルパー事業というのをこの10月からスタートしています。

「ちょっと、お買い物へ行きたいのだけど、ついてきてほしいわ」とか、「スーパーの宅配してくれたら助かるのに」というようなこともそうだと思います。それから、「病院には連れて行きたくないのだけど、自分が病院に行ってる間、子どもをみてほしい」とか、「ついてきてほしい」という、子育てのかゆいところに手が届くような、そんなこともできたらいいなと考えています。

時間がおしてしまってすみません、じゃあ、この辺で発表を終わらせていただきます。

望月氏 急がせてしまって、すみません。

では最後の最後1、2分をお願いします。



福山氏 すみません、大阪府の方から最後。お手元に資料がありましたら、こちらにチラシがありましたら見ていただけたらと思うんですが、青色のチラシで「まいど子どもカード」と書いておりますけれども、今日皆さん地域での取組みのご報告ありがとうございましたけれども、大阪府の方から、むしろ広域的な取組みということで報告させていただきます。

福井、三重、徳島を含みます関西2府7県ですと、京阪神を中心にやはり生活圏とか事業活動の範囲が広がっています。そこで、この9府県に四つの政令市がありますけど、4政令市とそれから経済団体も一緒に入っていて、子育て支援について府県域を越えた取組みをしようということで、こちらにあります青いシンボルマークとキャッチフレーズ

をその中心になります関西広域機構というところで決めていただきました。9府県、「今後、このマークと一緒に使って子育て支援の取組みを進めていきましょう」ということをやっています。

特に、私が書かせていただいています「関西子育て世帯応援事業」ということで、先ほど石川県、福岡県、香川県さんでも報告がありましたけれども、基本的にはお店の協力で子育て世帯に何らかのサービスを提供していただくということで、実は、関西の奈良県が平成17年4月に一番目にとり組んでいただいた事業です。その後、全国に広がりを見せていて、今年度の末までには37から38府県で実施するというようなことを聞いています。

関西は、今言いました広域的な取組みということで、特にチェーン店、例えばマクドナルドとかオークワとか公文塾とかJOMOといったようなところが府県域を超えて登録していただいているところなんです。

ちなみに大阪の方を言っておきますと、10月から始めましたが、今、650店のお店と、それから4,000人の世帯の方の登録をいただいています。

すみません、宣伝ですけど、本日おいでになられているお子様を育てておられる世帯の方も裏に登録の仕方を書いていますので、またパソコン、携帯から一度アクセスしてみてください、ぜひ登録していただけたらと思います。

このように全国的に広がっておりますので、また国の方にもお願いしたいと思います。こういった取組みの仕組み作りですとか、スーパー、コンビニなんかで全国チェーン展開されているところもありますので、そういった企業への働きかけもしていただけたら、さらにこの事業の弾みがつくと思いますので、是非よろしくお願したいと思います。

以上でございます。

望月氏 ありがとうございました。どうも最後の方は急がせて申し訳ありませんでした。11名が報告のはずだったのが今14名でしたので、計算違いが最初からあったということです。

もう、まとめる時間ありませんので、最後に本当にありがとうございました、ということで終わりたいと思います。

エンゼルプランから十数年が経ちまして、各地でこうしているような取組みが蓄積されております。こうして毎年お互い交換し合うということは、今後もまた必要だと思いますので、来年度もまたよろしくお願したいと思います。皆さんありがとうございました。

和太鼓演奏

■演奏／堺市立美原西中学校「和太鼓ファミリー」

